

# 万葉ロマンと 農民美術の里

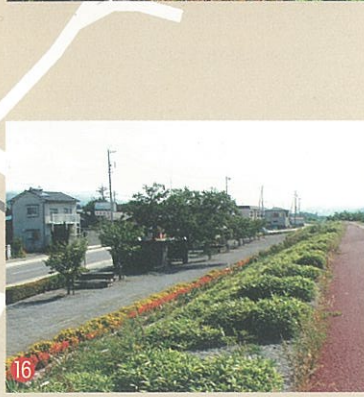
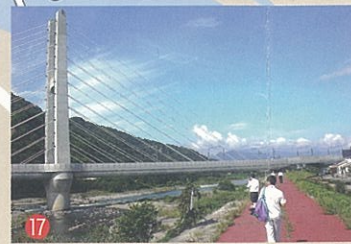
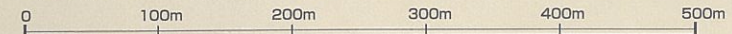


## 国分まち歩きマップ



モデルコース ..... バス停

信濃国分寺駅→150m→信濃国分寺史跡公園→270m→信濃国分寺資料館→50m→万葉植物園→100m→瓦窯跡観察施設→120m  
→仁王門→150m→信濃国分寺(本堂・三重塔他)→900m→中村実工房→220m→尾澤木彫美術館→450m→信濃国分寺駅







(信濃国分寺史跡公園を中心にした航空写真)

# 万葉ロマンと 農民美術の里

## 万葉ロマンの信濃国分寺

### ② 信濃国分寺史跡公園

約5.5haの日本初の本格的な国分寺史跡公園で、信濃国分寺史跡、万葉植物園、回廊式休息所、瓦窯跡観察施設、信濃国分寺資料館などがあります。当時の歴史や文化を知る事ができると共に、太古や万葉への想いを誘う広大な敷地と植栽が見事です。5月には、③ 藤棚の「カバンの藤」が美しく咲き誇ります。

### 信濃国分寺史跡

奈良時代に建立された信濃国分寺は、その後、律令制の崩壊等により衰退しました。遺構が出土したのは昭和38年の発掘調査からで、昭和46年までに7回行われました。現在の伽藍配置は、しなの鉄道及び国道18号にまたがっています。史跡内は、東側に僧寺跡、西側に尼寺跡、北側に信濃国分寺資料館及び瓦窯跡観察施設などがあります。

### ④ 万葉植物園

万葉集の和歌に因んだ約70種の草花が、和歌を添えて植栽されています。

### ⑤ 信濃国分寺資料館

発掘された関係資料を中心に、上田・小県地方に人々が移住して来た旧石器時代から国分寺が建立された奈良・平安時代まで、縄文土器、稲作農耕、古墳、国分寺の出土瓦などについて、テー

マ別に興味深く展示しています。開館：8：30～17：00、休館日：水曜日・祝日の翌日、年末年始等 入館料：一般250円、学生180円他(団体割引20人以上) 電話(0268)27-8706

### ⑥ 瓦窯(がよう)跡観察施設

国分寺の補修に用いた瓦を焼いたとされる窯(かま)跡に建てられた、瓦窯跡が観察できる施設です。

### 信濃国分寺

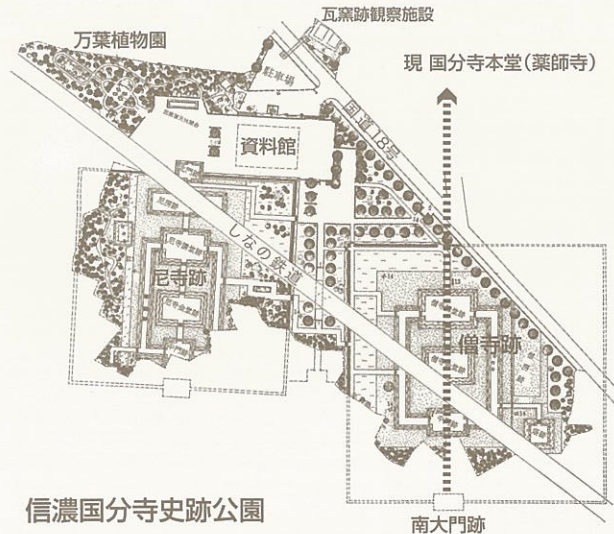
衰退した旧国分寺に代わって、平安時代後期に現在地に移転したと伝えられています。境内には、重要文化財の室町時代の建築といわれる三重塔もあります。天台宗中部四十九薬師霊場第一番札所としてもつとに有名です。史跡公園からは歩道橋を渡って北へ徒歩約3分です。

### ⑦ 仁王門

国道18号北沿いに位置し、現国分寺へいざなうシンボルです。江戸期の仁王像を安置し、現在の仁王門は昭和53年の建立です。

### ⑨ 本堂(薬師堂)

国分寺の本堂で、薬師如来がまつられています。国宝の善光寺本堂と同様に裳階つき建物で、大変風格があります。毎月8日に和尚さんがお経を上げるので、「八日堂」とも言われています。又毎年1月7日夕方から8日夕方にかけて行われる縁日には、有名な「蘇民将来」のお守り、福だるま、福アメを求める多数の参詣者が訪れ、国分寺周辺は大変な賑わいを呈しています。



### 信濃国分寺史跡公園

### ● 八日堂の年中行事案内(電話:0268-24-1388)

- 1月:初参り(三が日)、八日堂縁日(7~8日)、お焚きあげ(どんどやき、中旬日曜日)
- 2月:厄除節分会(豆まき、3日夜)
- 3月:大黒天縁日(宝の木槌講、8日午前中)
- 4月:花まつり・大般若会(8日)
- 8月:厄災除大護摩(7日夜)、お盆施餓餓会(16日)
- 10月:秋祭り(下旬の土・日)
- 12月:除夜の鐘・元旦護摩(31日夜12時)

### ⑧ 三重塔

室町時代中期の創建とされ、国分寺の名にふさわしい堂々たるもので、国の重要文化財に指定されています。

### ⑩ 蓮池

八日堂の裏手北側にある、水田に広がる蓮池です。7~9月に、見事な花を咲かせ、国分寺の本堂と調和した景観を形成しています。

## 厄除け開運の蘇民将来符

信濃国分寺八日堂で、古来より授けている護符です。奈良時代に薬師如来の化身である牛頭天王の信仰から由来し、各地の社寺では「蘇民将来子孫人也」のお守りが出されましたが、現存するのは稀でここ八日堂のものが最も著名です。古くからの伝承で、正月の7、8日の縁日には遠近の参詣者がこれを求め帰り、門戸にかけ、屋内棚に安置し、懐中携帯して、厄除け開運を祈願して来ました。

### ※ 上沢獅子(あげさわじ)

文政時代(1818~)頃から上沢集落に伝わる、二人立ち獅子舞です。正月、春、秋の年3回上沢神社で舞われています。



### <国分へのアクセス>

列車：東京駅(長野新幹線)→90分→上田駅(しなの鉄道)→3分→信濃国分寺駅下車  
車：東京練馬IC(関越・上信越自動車道)→2時間10分→上田菅平IC→ICから約15分



## 農民美術の里

農民美術は、大正8年に画家山本鼎(かなえ)が欧州留学の帰途、ロシアで見た農民の工芸品から啓発を受けたことから始まりました。その後、山本鼎は冬の農閑期を利用した農家の副業として、農村青年の手による美術工芸品の制作を提唱します。農家の経済力向上をはかると同時に芸術の大众化運動として起こった農民美術運動は、神川村(現上田市)に建てられた日本農民美術研究所を起点に全国へと広まりました。研究所は戦前に閉鎖されましたが、現在も農民美術作家が山本鼎の意志を引継いで農民美術の作品を作り続けています。



(山本鼎自画像)

### ⑫ 中村実工房

山本鼎の提唱した農民美術練習所第一期生で、鼎の意志を継承し、農民美術発展に意を注ぎその伝統を貫いた初代中村實(みのる)を父に持ち、二代目として精進を重ねています。現代の名工としての栄を双肩に受け、三代目の育成とともに、工房を伝統の源泉として守り抜いています。

### ⑬ 尾澤木彫美術館

農民美術の歴史と伝統を伝える作品を、本格的な3階建て和洋折衷の木造建築の中に展示しています。開館:9:00~18:00(冬季のみ17:00まで)、年中無休、入館料:一般500円、子供200円(団体割引20人以上)、電話(0268)22-4337

### ⑮ 山本鼎顕彰碑(神川小学校)

顕彰碑の建つ神川小学校は、児童自由画教育、農民美術の二つの美術教育運動発祥の地です。子どもの美術教育を変えた児童自由画教育は、大正7年に神川小学校で提唱され、第一回児童自由画展覧会が開催されました。農村の改革を試みた農民美術運動も、大正8年に神川小学校で第一回講習会が行われました。この顕彰碑は、これらの美術教育運動を提唱した山本鼎を称えて昭和53年に設置されました。

< お問い合わせ先 上田市観光課 0268(22)4100 >